

巻き寿司で考える文字論



阿辻哲次

文字を研究対象とする者には欧米の言語がどうにもつきあいにくい。ラテン文字やキリル文字では、各文字に固有の意味がないから、AならAをいくら研究しても、それが元来は牛の角の象形文字で……ということくらいで、私などは研究が行きづまってしまう。

しかし文字はそれだけで一人歩きをしてきたわけではなく、どんな文字であっても、いつも人間の文化とともにあった。そのことについて、私は講義でいつも、一本の大きな巻き寿司にたとえて説明する。

まことに奇矯な比喻であるが、いま人間の歴史を、一本の長大な巻き寿司であると考えてみる。それはいったい何メートルあるかわからないほどに長く、これから先もずっと巻き続けられ、いつまでたっても完成することがない。

巻き寿司だから各種の具が巻きこまれているのだが、しかしそれぞれの具が最初から最後まで巻きこまれているとは限らない。途中で切れてしまう具もあれば、多めに使われていたり少量になっていたり、具の分量も場所によってまちまちである。さらに末端にはスモークサーモンやチーズといった、一般の巻き寿司には使われないハイカラな具も使われている。

そんな奇妙な巻き寿司だが、しかしカンピョウはメジャーな具の一つとしてほとんどの部分に使われている。他にも卵焼きやシイタケ、三つ葉などが、時には太く時には細くなりながら、カンピョウと同じように、長大な巻き寿司のほとんどの部分に使われている。

普通の巻き寿司なら、どこで切っても、金太郎飴のように断面が同じような形に見える。しかしこの奇妙な巻き寿司は、左端から5センチの所と15センチの所で切った場合、断面が同じように見えるはずがない。

どの切り口でも、カンピョウやシイタケなどメジャーな具は見えているのだが、しかしカンピョウが他の具とどのようにからまりあっているか、カンピョウと卵焼きのどちらが太いか、あるいは二つが隣り合っているのか離れているのかなど、具と具の関係は切り口ごとに異なっているにちがいない。

さてここまで「カンピョウ」と呼んできた具を「文字」に置きかえてみよう。同じように「三つ葉」を「経済」に、「シイタケ」を「教育」に読みかえよう。他にも「音楽」や「軍事」と読みかえられる各種の具が巻き寿司には巻きこまれていて、それらが各断面ごとに異なった位相で、カンピョウ=文字とからまりあっている。巻き寿司の終点に近い部分に出てくる「チーズ」はタイプライターを意識しているのであり、「スモークサーモン」は、コンピューターのたとえである。

こう考えてくれば、巻き寿司でたとえた歴史の流れの中で、各時代にそれぞれの文字が、政治や芸術、教育にまつわる言語事象とどのように関係し、存在してきたかを、包丁を入れた時代ごとに見比べることができるのではないだろうか。

これまでおこなわれてきた文字の研究は、ある文字体系がどのように変化発展してきたか、その歴史的変遷を通時代的に考察するものであった。しかしこの方法では文字を使ってきた人間の姿がほとんど見えてこない。それに対し、私が考える「巻き寿司」論なら、文字と人間関係をテンポラリーな次元でとらえていくことができる。それが私の目指す、文字と人間関係の研究で、そこにおいては研究の対象が英語であろうが中国語であろうが、まったく関係ないのである。

(あつじ てつじ・京都大学大学院教授)

『プラクティカル ジーニアス英和』を送る ——高校用学習英和のこれまでとこれから



小西友七

昨年秋の『ジーニアス英和辞典』第2版(G和英²)に続き、今年は『プラクティカル ジーニアス英和辞典』(PG)を出版することになった。これは1998年(平成10年)秋に出した『アクティブ ジーニアス英和辞典』(AG)の後継となるものであるが、単なる改訂でもなく名称を変えただけでもない。周知のように、最近のコンピュータコーパスの開発により、英米、特に英国の学習辞典の躍進の第一波は1995年に始まり、それまでの学習辞典の性格を一変させた。そして今度は第二波ともいうべく、*OWD*² (2000), *NPEG* (2001), *OALD*⁶ (2000) [今年中に7版が出るという], *LDOCE*⁴ (2003), *Cobuild*⁴ (2003), *CALD* (2003), *ECSD* (2003), 米国でも *LAAD* (2000), *MED* (2002) が相次いで出版され、また新風を巻き起こしつつある。一方、日本ではますます「使える」英語の緊急性が増大しつつある。

このような状況下において、東森勲君らを中心として進めてきた、刷新的な枠組と新しい工夫がもりこまれたPGの出版は、正にタイムリーと言うべきであると思う。

■高校中級辞典の誕生

1987年秋、十年以上を費して、われわれが出版した『ジーニアス英和辞典』(G)は、高校二年生を中心に、大学生、一般社会人をも射程に入れた上級の学習辞典であった。これが、予想を上回る好評をもって迎えられた。特に、その翌年、英国の国際辞書学の専門機関の目にとまり、その書

評の中で、‘a consistently high standard throughout’ と評されたことは英和辞典としては珍しいことで、われわれ関係者一同にとっては大いに面目を施すとともに、今後の内容のいっそうの充実に意欲を新たにした次第であった。

これに勢いを得てというか、いち早く「ジーニアス=ファミリー」の第一子ともいうべき、中級の高校学習辞典『フレッシュ ジーニアス英和』(FG)を誕生させたのはその翌年の1988年秋であった。しかし、これはまだ『ジーニアス英和』に近く、つまり‘親寄り’で程度が高いということから、1991年秋に、さらに中級の高校生に必要な情報だけに的を絞り込んで、改良を加えて第2版を送り出した。これは、前よりはかなり‘親離れ’した独自性を出したものであった。そして、中級の高校用英和辞典として数年愛用され続けた。

ところが、先にも触れたように、1995年英国で主としてコーパスを利用した *OALD*⁵, *LDOCE*³, *Cobuild*³, *CIDE*, *HEED* (*CEED* と改名) などの画期的な学習辞書の改訂版や新版が続々現われた。少し遅れて米国でも *Newbury House* (1996), *RHWDA* (1997), *AHESLD* (1997), *NTC's AELD* (1998) がそれに負けじと続き、これまで学習辞典のなかったオーストラリアにも *AUSLD* (1997) が出現した。

一方、日本の英語教育では、指導要領にも学習の目標として「聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと」とあるように、これまでの「読み書き」優先が逆転して、aural-oralに重点を置いた4技能の習得が重要ということになり、最近の国

際情勢から、ますますコミュニケーションの必要性が唱えられるようになった。

このような内外の情勢から、コミュニケーションに即応できるような学習辞典の出現が待望されるようになってきた。これにこたえるために1998年秋に出版したのが、『アクティブ ジーニアス英和』(AG)であった。この辞典では、まずコミュニケーションの必要に対処するために、実際の例文、特に「対話文」を多く載せることにした。しかし、それだけでなく、辞書本来の目的に則って意味・用法をよく理解できるように努めた。例えば watch を「(動くものを) 見る」とすれば、watch the picture は「絵を見る」ことにはならないことや、look at [×watch] the painting が容易に理解できる。このように内包的意味 (connotative meaning) を可能な限り示すようにした。また、ランキングを見直し、AB ランクは高校生の発信に必要な語彙に絞り、ここに重点的にスペースを配分してコミュニケーションに必要な情報を多く載せるようにした。などなど。かくして、コミュニケーション、特に OC (oral communication) を重視した中級の学習辞典としては完成度の高いものであったと自負している。

2002年秋には弟分の初級の『ヤング ジーニアス』(YG)の後継辞書として『ベーシック ジーニアス』(BG)という、より初級らしい魅力的な英和辞典を出した。こうして、「ジーニアス=ファミリー」は、BG, AG, G, G 大(英和)(2001)がそれぞれ初級、中級、上級、大人用に対応するようになり、それぞれの段階における役割を備えた英和辞典の系列が完成した次第である。

■これからの中級英和辞典の使命

私が小学校低学年だった頃だろうか。親が私のために新しい靴を買ってくれた。伸び盛りのこととて、少し大き目のものだったらしく、爪先に布を詰めてくれたが、それでも、歩くごとに違和感があり、馴れるまで苦労した思い出がある。それ

に似たようなことを、春先の入学シーズンになると書店の新刊辞典コーナーで目撃することがある。先日も、新入生と思われる子が手にしていた初級辞典を、若い母親らしき人が、それではすぐ使えなくなるからと取り上げ、さっさと別のものを買っていった。同じ買うなら、先のことを考えて、上級の辞典をあてがっておけば、という心理が働くからであろうか。

これには、学習辞典の出版社側にも問題があったのかもしれない。準備段階の初級のものとはともかくとして、中級のは、やや境界があいまいであったように感じられる。この中級の段階では、さらに上級への展開を期しつつ、基礎固めの重要な時期で、aural-oral を軸に基本的な英語力を徹底的に身につけておくべき段階である。つまり、英語をよく聞き取れ、それに反応して適切に話すことができること、これを主にして、次いでよく読み取れ、適切に書けることである。要するに、この段階は「使える英語」の基礎の部分の反復訓練に尽きると言ってよい。決してそれ以上の高望みは慎むべきである。

しかし、今のところ大学入試が依然として OC よりも読み書きのほうに比重を置き、少しずつ改善に向かっているとはいえ、多くの学習者はそれを意識せざるをえないのは残念である。それゆえ、中級学習辞典も現段階ではまだ入試対策の要求にも応じなければならない面もある。が、中長期的には、その先を見越して、高校の英語教育の方針に連動し、OC 重点の方向に転換すべきであろう。理想としては、初級、中級、上級の各レベルの記述の重複を必要なかぎり避けて、独立性を確立し、各段階に沿った情報提供を目標とすべきである。中級辞典では、繰り返すが、具体的には working vocabulary としての AB ランクの語彙の徹底的理解と運用能力に資する情報提供に集中することはもちろんだが、CDなどを付して豊富な訓練の場を与えることも求められるであろう。

(こにし ともしち・神戸市外国語大学名誉教授)

【編集方針】 新機軸満載！ 新時代の 高校生向け英和辞典



東森 勲

1. 編集方針について

『プラクティカル ジーニアス英和辞典』(PG)は、高校生のための新時代の情報満載型・発信型英和辞典であり、「ジーニアス=ファミリー」を形成する『アクティブ ジーニアス英和辞典』(AG, 1999)の後継となるものである。英語を読むときに使うだけでなく、海外に向けて発信するときにも使用できる英和辞典をめざした。

編集にあたっては以下の6点が重要と考えた。

1. 高校生の受験対策も考え、巻末に〈発音〉〈語形成〉〈文法〉をまとめた。

たとえば、〈発音〉では1995～2004年(過去10年分)のセンター試験の発音・アクセント問題の分析を踏まえて、発音・アクセント・同音・類音をまとめた。〈文法〉については、本文の中で単語の問題というよりは一般的な文法の問題と見なされる記述は思い切って巻末に回した。また、本文から「文法」への参照を頻繁に行なって両者が有機的に結びつくように配慮した。

2. コーパスによる検索結果を用いて語法情報(たとえば、ある名詞に不定冠詞aがよくつくか)とか構文情報(たとえば、この動詞はどの前置詞とよく用いられるか)などを再検討し、実際の英語使用をできるだけ反映するように努めた。

● necessity の項

図3「必然(性)」の意味の場合、Uであるが、コーパスではnecessity 1780件のうちa necessityは273件で15.3%、the necessityは787件で44.2%。このデータにより、[時にa～]と記述した。

● view の項

have a different view as to education「教育について異なった見解をもっている」がAGには例としてでていますが、コーパスではas toの用例がなく、onが76例、aboutが17例なので、例文をPGではHe has a different view on education.と変更した。

3. 語法欄をさらに充実させるため、最近の語法情報を追加・修正した。

● break の項

語法 be brokenは通例比較的小さなものについて用い、大きなものについてはnot working [functioning]またはout of orderを用いる。特に公の施設などについてはout of orderが好まれる：The elevator is not working.エレベーターが故障している / This public telephone is out of order.この公衆電話は故障している。

4. 収録語句数は、PGでは約65,000に増やし、より多方面のニーズにこたえられるように配慮した。

5. 巻末の〈語形成〉については、接辞(接頭・接尾)・連結形という用語ではなく、「語要素」とし、これを語頭要素・語末要素に分けてわかりやすくした。また、語要素リストは役割の似たものをまとめ、学習に便利のように工夫した。

6. 語義の配列をわかりやすくしただけでなく、語義の訳語のなかでどれが重要かを示す〈太字語義〉マークと〈ランク〉の見直しをした。

2. 新機軸について

2.1 語義の拡張 — 意味のつながりがバッチリ!

たいていの語は複数の語義（語の意味）を持ち多義的である。従来の大部分の英和辞典における語義の並べ方は、頻度順と歴史的順序との折衷であるため、語義同士の意味のつながりがわかりにくくなっていることがあり、辞書使用者には不親切な面もあった。PG では、認知意味論、認知語用論の最新の研究成果を踏まえ、語義ごとの使用頻度を重視しつつ、主要な語義を I, II, III とグループ分けし、また、再検討した太字の語義とあわせて、複数の語義のつながりを理解しやすいように工夫した。

AG の light² 形容詞の語義配列では、以下に引用するように語義間のつながりが見えづらかった。

- 1 軽い；比重の小さい；量目不足の
- 2 (量が) 少ない；(程度・力などが) 小さい
- 3 <罰・仕事・病気・税・打撃などが> 軽い, きびしくない；容易な；<風が> 穏やかな
- 4 軽快な, [足取りが] 軽やかな
- 5 苦勞 [心配, 悲しみ] のない；[心が] 陽気な, 快活な
- 6 <本・音楽・役者などが> 娯楽の, 肩のこらない
- 7 軽率な, 気まぐれの；<気持・目的などが> 変りやすい
- 8 <食物が> 消化しやすい, 胃にもたれない；<酒が> アルコール分の少ない；<飲食物が> 低カロリーの, 低脂肪の
- 9 ふらふらする, 目まいのする
- 10 <土が> くだけやすい, 砂気が多い
- 11 <女(の行為などが)> ふしだらな, 身持ちの悪い
- 12 《軍》軽装備の；<鉄道・船などが> 軽量荷物用の；<機関車が> 車両を連結していない；<船が> 荷を下ろした [積んでいない]

これが PG では以下のように意味の広がりかわ

かるようになっている。使用頻度も重視し、最もよく使われる語義を 1 とし、A ランクの超重要語義を（ここではお見せできないが）赤字にした。

I [物理的な重さが軽い]

1 <物の重さが> 軽い；比重の小さい；量目不足の

2 <量が> 少ない

3 《軍》軽装備の

II [物事の程度が軽い]

4 <仕事・病気などが> 軽い, 軽度の

5 <食べ物が> 軽い, 消化しやすい, 胃にもたれない；<酒が> アルコール分の少ない

6 <眠りの程度が> 浅い

7 <土が> くだけやすい, 砂気が多い

III [動作・気持が軽い]

8 軽快な, <足取りが> 軽やかな

9 <頭が> ふらふらする

10 陽気な, 快活な；苦勞のない, 悲しみのない

11 軽率な, 気まぐれの

12 <女(の行為などが)> ふしだらな, 身持ちの悪い

IV [内容が軽い]

13 <本・音楽・役者などが> 肩のこらない, 娯楽の

2.2 使い分け — よく似た意味の語の区別はこれで OK!

語法欄のような詳細な記述でなく、2つ以上の意味の似た表現の使い分けを簡潔に具体例で確認できるようにした。日本人がよく間違えるものには×印をつけた。

● in の項

[in TV と on TV]

in TV は「テレビ関係の仕事をしている」の意。

on TV は「テレビに出る」の意で用いる。

He is *in* TV. 彼はテレビ関係の仕事をしている。

He is *on* TV. 彼はテレビに出ている。

● first の項

[first と at first]

「まず第一に」の意では first。

at first は「最初のうちは」の意で, later (後) と対照的に用いる。

First [×At first], put the coin in the slot and press the button. 最初に料金投入口にお金を入れて, ボタンを押してください。

At first [*At the beginning, Initially, ×First*], she seemed cool, but I found that she was a good person. 初めのうち彼女は冷たい人に見えたが, よい人であることがわかった。

● gain の項

[gain と advance]

gain は自動詞で, 「時計が進む」の意。「時計を進める」の意の他動詞では advance を用いる。

This watch *gains* [×advances] one second every month. この時計は毎月1秒進む。

Your watch is slow. You should *advance* [×gain] it two minutes. 君の時計は遅れている。2分進めるべきだ。

2.3 日本発——発信に役立つ日本の例がいっぱい!

発信型英和辞典とするために, 日本の諸相をどう表現するかを示す用例を多数掲載した。これらは, 日本の歴史・文化・習慣・現代事情などの具体的な事象を発信するのにすぐに役立つもので, **日本発**マークをつけ, 見やすく工夫してある。

● mobile phone

Some high schools in Japan prohibit their students from bringing mobile phones to school. 日本の高校の中には携帯電話の学校への持ち込みを禁止しているところもある。

● restructuring

Risutora is the Japanese abbreviation for restructuring and is virtually synonymous

with “layoff.”

リストラとはリストラクチャリングを略した日本語で, ほとんど「解雇」を意味する。

● life expectancy

The average life expectancy in Japan is now the highest in the world, with an average of seventy-eight years for men and eighty-four years for women.

日本の平均寿命は現在世界最高で, 男性が78歳, 女性が84歳です。

2.4 ジョーク——笑える辞書をめざしました!

英語学習を楽しくするため, ジョークの用例を取り入れた。ジョークは1つの単語が複数の意味にかけて使用されたり, 論理のずれによっておかしみが生じるもので, 深く英語を理解し, 英語のセンスを磨くにはよい言語材料と考えられる。ジョークの用例には **ジョーク** マークをつけ, 必要に応じて理解を助ける説明を加えた。授業などでも, ジョーク用例を話題に, 単語の意味の多義性, 落差を教えていただけるとありがたい。

● fish

“What fish do you meet in space?” “Starfish.” 「宇宙で出会うのはどんな魚?」 「ヒトデ」 《◆ starfish は「星の魚」という意味》。

● ball

Cinderella was bad at football because she kept running away from the ball. シンデレラはボール [舞踏会] から逃げ続けたからサッカーが下手だった

● deer

“What is a deer with no eyes called?” “No idea.” 「目のないシカを何と呼ぶ?」 「シラナイ」 《◆ no eye deer (目なしシカ) とのしゃれ》。

● jam¹

“Why are strawberries like cars?” “When you have a lot of them, they make a jam.”

「イチゴと車はなぜ似ているの?」「たくさん集まればジャムができるから」《◆jam² (渋滞) とのしゃれ》。

3. その他

3.1 【いろいろな〇〇】— 発信のための情報が満載!

新機軸ではないが、全面的に見直したものに【いろいろな〇〇】がある。ひとかたまりの知識として【いろいろな〇〇】を設け、利用者の語彙増加のためにも役立つようにした。

【いろいろな種類の accident】

air [aircraft] accident 航空(機)事故 / fatal accident 死亡事故, 人身事故 / industrial accident 業務災害, 労働災害 / marine accident 海難事故 / medical accident 医療事故 / nuclear accident 原発事故 / railway accident 列車事故 / road [car, traffic, automobile] accident 交通事故。

【いろいろな種類のテレビ受像機】

high-definition television 高品位テレビ, ハイビジョン / liquid crystal display television 液晶テレビ / plasma display television プラズマテレビ。

【いろいろな種類のテレビ放送】

cable television ケーブルテレビ / commercial television 商業 [民間] 放送 / educational television 教育テレビ / instructional television (教室用) 教育有線テレビ番組 / interactive television 双方向テレビ / pay television 有料放送 / public television 公共放送 / satellite television 衛星放送。

3.2 【新語・新情報】— 最新の英語情報の充実!

世界は今, イラクでの戦争や新型の病気

(SARS) など, 安全性 (security) が問われる不安な時代である。地上波デジタル放送, 携帯電話, インターネットの進化, 異常気象など, 地球規模で大きく動いている。新語・新語義もどんどん誕生している。PG ではこのような新しいもの, 若者文化に関わるものはできるだけ収録するよう努めた。

- ecofriendly 「生態系[環境]にやさしい」
- EU Enlargement 「EU (ヨーロッパ連合) 拡大」
- gene therapy 「遺伝子治療」
- 9/11 (nine eleven と読む) 2001年 9月11日のニューヨークとワシントンでの同時多発テロ
- public involvement 「住民参加」
- tick of 「…を的確に述べる」

3.3 【訳語】— 訳語も進化!

- tattoo 「入れ墨」に「タトゥー」を追加
- dye [paint] one's nails (nail の項) 「つめを染める」から「ネイルする」へ
- herb 「香料用 [薬用] 植物」から「ハーブ」へ

4. 最後に

海外の辞書事情をみると, ここ数年, 英米で学習辞典が次々と改訂されている。2003年にはいろいろと検索可能な CD-ROM 付きの LDOCE⁴, Cobuild³, CALD が出版され辞書の新時代到来を思わせる。

このように辞書作成も, 一方では電子辞書の進展があり, 他方, 英国では CD-ROM 辞書が従来の紙の辞書と一緒に出版され, 紙の辞書以上の情報が検索されるようになっていく。今回の新機軸が日本における英和辞書の新たな一歩となれば幸いである。

(ひがしもり いさお・龍谷大学教授)

【文法のまとめ】 発信するための基礎文法が充実!



佐藤 哉二

『アクティブ ジーニアス』から6年経過した、後継の『プラクティカル ジーニアス』はそれなりの成長をしていなければならない。いつまでも旧態依然としてはいられない。

英語を、第二言語ではあっても、自分の言葉として使える能力の必要性がますます叫ばれている。学習用英和辞典もコミュニケーションのツールとしての工夫が求められる。

声高に叫ばれている「英会話力」といえどもやはり基礎は英文構成力であろう。

「語法のジーニアス」と認められて久しいが、個々の語句の usage 解説にとどまらず、文法のしくみを関連づけ、高校生を対象とした「文法のまとめ」(以下「文法編」と表記)を充実させるという案が提出された。単なる付録ではなく、英文法の基礎を網羅した内容を目ざした。

本体と文法編の位置づけについて。旧版でも文法編に25ページを当てていた。項目別の簡潔な内容であったが、それなりの評価はいただいている。新版では、生徒の「なぜ」を先取りした解説をたくさんとり入れた。そのため42ページという、英和辞典収録としては類を見ないボリュームとなった。

文法用語はなるべく用いず、しかもやさしく読めるようにと記述にも配慮したが、これはユーザーの評価を待つしかない。

更なる工夫として、辞典本体から文法編へジャンプし、参照できるよう、参照記号➊をあちこちに付した。引き始めは面倒がらずに「忠実に」その箇所へジャンプし目を通すことを繰り返せば、

苦勞せずに頭にインプットされるはずである。

文法編を通読してほしいという希望はもちろんあるが、1項目読み切りを心掛けた解説にした。英文法には例外も多いが、高校生のための基本文法であるから、必要ないと思われる付随的な説明は割愛した。忘れたらその文法項目に返って繰り返し読むことで基本文法が習得できると考える。

前口上が長くなった。紙幅が許す限り本体と文法編とをどのように有機的につないでいるかの例を述べることにする。

■同意表現のニュアンスの差を明示

naïve に「It's naïve of you [You are naïve] to take him seriously. 彼の言うことを真に受けるなんて君は単純だね」という例文がある。言い換えの豊富さが「ジーニアス」の特徴で、2通りで言えることが示してある。そして大切なことだが、形の違いによるニュアンスの違いを知っていれば適切な場面で使うことができる。そこで日本語訳の後に➋文法17.5と参照先が付されている。そこには次のような説明がある。

「当人の性質について言うのではなく、その場での行為をほめたり、けなしたりする言い方。特に本人の前ではいきなり You are careless to do と切り出すより It is careless of you to do の方が好まれる。」

親が子供に言い聞かせるときなどは前者を使い、やんわりと矛先をゆるめることが相応しい相手には後者を使えばよいことが知れる。

また、卑近なことだが、この言い換えは大学入

試問題としても頻度の高いものでもあり、同じグループの形容詞を20以上まとめてある。これらの語からも17.5を参照していくうちに自ずと2文の使い分けができるようになるはずである。

■本体に散らばった断片を一本化

文法事項でこれが重要あれが大切などと順位をつけてもせんないことだが、仮定法はそれでもやはり生徒が理解しにくいものの一つであろう。

その難しさには時制を使い分けることもあるが、仮定法の存在理由が十分に理解されないこともあろう。例えば If I were you, I would quit my job. と言われたら、「もし私があなただったら私は職を辞めるのだがな」と呑気なことを言われているが実は、「おまえ、やめろよ」と言われているのである。そのあたりの説明を十分におきたい。その意図もあり文法編では仮定法にかなりのスペースを割いた。仮定法の文が含意する意味も例示しておいた。

また、仮定法について英和辞典で調べたければ、if を引けば大方は出ていそうだが、そうでもない。英和辞典では仮定法過去については were, 仮定法過去完了については have, if 節が句や節に相当する表現は to (不定詞), without, otherwise などに分散している。さらに仮定法で用いられる助動詞過去形もそれぞれの見出し語で解説されている。独立した1冊の文法書であれば仮定法の章で網羅できるのだが、英和辞典ではあちこちに散らばってしまう。それがそれぞれのエントリーから文法編へジャンプすることにより、仮定法という大きなプールを泳ぎ一巡することが可能となった。

■個別の注記から1区分上位のルールへ導入

on ㊦ 3 [所持・着用] …につけて、…の身につけて (↔ off) || **put [have] a ring on one's finger** 指輪をつける [している] 《◆ one's finger を省略すると on は副詞》

この注記から put a ring on と言えることがわかるのだが、これで終わりとすると put A on だけの理解になってしまいいかにももったいない。そこで㊦文法18.7を付し、「前置詞と同形の副詞」へ導き一般化できる語法であることを知らせた。

次の例では指輪は指にはめるのに決まっているのだから、どの指かを言うのでなければ目的語は切り捨てるほうが簡潔でよい。

She put a ring **on** her little finger. (彼女は小指に指輪をはめた) [前置詞]

She put a ring **on**. (彼女は指輪をはめた)
[副詞]

そして、目的語が切り捨てられた前置詞は副詞辞となり、動詞の直後に移動することもある。

She put **on** a ring.

これにより、

They opened the gate and the procession passed through. (彼らが門を開けると行列が通って行った)

の through にも㊦文法18.7と参照先が付されているので、語は異なるが1つの語法にまとめられることに気づくであろう。

■スリムになった本編

例えば have には一般動詞と助動詞があり、『アクティブ』でも5ページ近くを割いている。助動詞としての have は完了形の説明だがこれも現在完了形、過去完了形、未来完了形に3大区分される。そして面倒なことに、過去完了形の中に「仮定法過去完了」が紛れ込む。英和辞典の宿命だが言葉のデパートであるから避けられない。

これを、文法編に「完了形」で1章、「仮定法」で1章を設けることにより、本体の助動詞 have の項がスッキリした。ほとんど用例だけになった。紙幅の都合で全部をご覧いただけないが、現在完了形の一部を掲載しておく。

I [現在完了]

1a [完了・結果] [have [has] (just) done]

ちょうど…したところだ || The clock *has just struck* ten. 時計がたった今10時を打った。
[have [has] already done] すでに…した ||
The bell *has already rung*. 鐘はすでに鳴ったよ。

[Have [Has] A done... yet?] もう…したか || 対話 “Have you finished your homework yet?” “Yes, I have [No, I haven't].”
「もう宿題は終わりましたか」「はい、もう終わりました [いいえ、まだ終わっていません]」。
[have [has] done] …した, してしまった, している ◆何かをした結果今どういうことになっているのかを述べる || The two nations *have established* diplomatic relations. その2か国は外交関係を樹立した。

本編では用例だけだが、文法編では現在完了が伝えようとする含意までも《 》を用いて1文ごとに触れた。「現在完了はhave+過去分詞」で終わらせたくないからである。

The taxi *has arrived*. (タクシーが到着しました) 《「タクシーが今ここにいる」, 「さあ行きましょう」, 「早くしなさい」》

Have you ever *been* to Yokohama? (横浜へ行ったことがありますか) 《「横浜への行き方を教えてほしい」》

生徒がいつも《 》を補って、含意を理解できるようになることが意図である。

その他の工夫としては、それぞれ用例にたどり着きやすいように代表的な完了形の形を [have [has] (just) done] などガイドとして立てたので調べやすくなった。用例だけでなくもう少し理解を深めたいければ⑤文法6の該当セクションにジャンプすることになる。

従来検索しにくかった have gone to A, have just been to A なども have の成句にまとめた。

このようにしてスリムになり、余裕の出たスペースにはまた新たな工夫をこらした。その新企画については本号の他の記事をご覧ください。

■同じ用法の語を一覧表示

文法編のもう一つの特徴は、例えば「同格のthat節」の項で、そのthatをとる名詞の主なものを紙幅の許す限り挙げたことである。22.5を見ていただければお分かりのように50語が並んでいる。

このほかには、無生物主語の構文で用いられる動詞、目的語に不定詞をとる動詞、目的語に動名詞をとる動詞、両方可能で意味もほぼ同じ動詞、意味が異なる動詞、easy型の形容詞、kind型の形容詞などの主な語が、検索しやすいようにアルファベット順に並んでいる。

■新しい情報

8品詞の中では、名詞はとかく分類に重点が置かれがちである。物質名詞、集合名詞などは数の呼応にもかかわりおろそかにできないが、名詞表現という構造に関わる情報も大切である。the influence of West upon Japanなどの主格・目的格関係が1項目を当てて解説されている。

また、the riverside hotel murderといった簡潔な表現法にも注意を向けさせるべく、「名詞の形容詞的用法」の項が設けられている。

㊦㊧の名詞に関しては、『ベーシック ジーニアス』で採用した「work … ㊦仕事 ㊦作品」などの表示を一覧表にし、日本語からは「詩 … ㊦a poem ㊦poetry」なども一覧表にした。このような使い分けがあることに気づいてほしい、正しく使い分けができるようになってほしい、という希望をこめた分類表が14.3にある。

『Practical Genius』の名のごとく、知識としての文法ではなく、伝えたいことを伝えるための基本文法が盛り込まれている。学習者が文法を超えてことばの面白さにも興味をおぼえられるような工夫をいくつか紹介した。

(さとう さいじ・元埼玉県立高等学校教諭)

●コラム●

アサリは英語で何と言う？

英語辞書編集部

アサリは英語で何と言うのか、という質問が来ました。『ジーニアス英和辞典』では (short-neck) clam としていますが、littleneck としている文献もある、確かめてほしい、とのことでした。

編集委員の N 先生のほか、『ジーニアス英和大辞典』で専門語校閲をお願いした貝類の専門家 T 先生にもお訊きすることにします。

まず N 先生から。「国立環境研究所の EIC ネット、それから長崎県水産部ホームページでもアサリを short-neck clam と訳しています。問題はないと思いますが、ボンゴレのレシピの多くに short-neck clam ではなく littleneck clam が載っていることなど、気になる点もあります。」

T 先生から暫定的な回答が来ます。「アサリ *Ruditapes philippinarum* は、サハリン以南・日本全土・中国沿岸・台湾・フィリピンに分布します。英語名は Filipino venus です。アサリ属に属する種は、すべて ~ venus という英語名が付けられています。おそらく、アサリに littleneck clam もしくは short-neck clam を当てることは、正確にはどちらも間違いだと思われそうです。」

ところで、『平凡社大百科事典』「アサリ」の項では英語名を Japanese little neck としていますが、「ボンゴラ」の項を見るとイタリアでスパゲッティ・ボンゴレに使われるセイヨウアサリの学名は *Ruditapes decussata* とあり、これはアサリと同属です。ごく近い種だとはいえそうです。また venus を使った言い方は専門家以外ではまれであるようです。アサリはアメリカやイギリスに存在しない以上、セイヨウアサリを short-neck clam と言うことが確認されれば、厳密には別物でもごく近いものとしてこれを当てることも許容されるのではないかと考えていた矢先、T 先

生から詳しい調査結果が来ました。

「まず littleneck clam とは、北米の干潟の二枚貝で *Mercenaria* 属と *Protothaca* 属に属する複数種を指し、ホンピノスガイ (英名 (Texas) quahog, 別名 quahog littleneck) が代表のようです。ニューヨークでボンゴレに quahog が使われていることを確かめました。

次にセイヨウアサリは、現在の学名は *Venerupis decussata* で日本のアサリとは別属に分類され、標準英名は decussate venus, 分布は大ブリテン島から地中海にかけての干潟です。イタリア料理のパスタのボンゴレに使われるのはこの *V. decussata* が多いこと、short-neck clam という英語名が使われていることもわかりました。

short-neck clam とはこのセイヨウアサリのことで、東アジアに分布するアサリの英語名としては、『平凡社大百科』の記述の通り、Japanese little neck がふさわしいと思います。」

Japanese little neck [littleneck, little-neck] の使用例がかなりあることはインターネットで確認できました。そのうえで N 先生と相談し、T 先生の結論に従って訂正することに決めました。ただし表記は Japanese littleneck とすることになりました。

以上が、来年度版の『ジーニアス英和辞典』「アサリ」の項で実施される小さな修正の背景です。こんなふうには、私たちの辞書はより正確な記述をめざして毎年少しずつ成長していきます。

ところで、short-neck clam のボンゴレは「(日本のものと)見た目は似ているが味はかなり違う」という内容のホームページがあったそうです。北米でボンゴレに使われる貝もアサリの仲間とは言えないようです。海外でボンゴレを食べた方、いかがでしたか。(T)

【語法・構文】

コーパスにより進化した「使える」用例



畠山利一

語法の記述については、二つの方針を立てた。(1) 現代英語の用法に合わないものは修正または削除する、(2) 発信に必要な情報を追加し、発信に貢献しないものを削除する、である。『アクティブ ジーニアス英和辞典』(AG と略す) 出版以降に出た、*Longman Grammar of Spoken and Written English* などの文法書、OALD⁶、LDOCE⁴、COBUILD³、CALD、MED などの英米の学習辞典はじめ、多くの資料を参照した。しかし、この改訂の最大の特色は、コーパスを使って、AG の記述の点検を行ったことである。コーパスは、主にウェブ上で公開されている、英米の新聞・雑誌の電子版と放送のトランスクリプトを集めて作った、独自のものである。これにより『プラクティカル ジーニアス英和辞典』(PG と略す) では数々の改善を行った。そのいくつかを述べてみたい。

1. 新しい構文の導入

コーパスで view の項を見ると、one's view is that 節が多く見られる。次はその一部である。

My view is that Michael Eisner really would
But our view is that this is a distinct product,
The feminine view is that sensitivity is a great virtue
この構文は話しことばでよく用いられている。「私の考えは…です」と述べるときに使うことができ、発信のために使用範囲が広いと思われるので、My view is that she will be elected. (彼女が選出されるだろうというのが私の考えです) という用例を入れた。OC の授業でも利用できる

のではないだろうか。この構文は problem や trouble でおなじみのもので、この 2 語については AG でもすでに掲載されているが、PG では、従来知られている語のほかにコーパスで顕著に現れたものを採録した。もう 1 例あげれば、understanding の項に My understanding is that there were 10 people on the boat. (船に10人の人が乗っていたと思います) を用例として追加した。

appreciate の項でも構文の追加を行った。[appreciate doing] の構文はすでに掲載されている。しかし、コーパスには次にあげるような [appreciate A doing] の使用例がかなり出てくる。

we'd appreciate them helping us bring our
I appreciate them memorializing those killed here,
I appreciate you being with us, Lin Wood

この構文表記とともに、例文として I appreciate him coming to Tokyo and having a meeting. (彼が東京に来て会議を開いてくれることをありがたく思っている) を加えた。

2. 使われない構文の削除・修正

AG の bright の語義 5 「利口な」の項に [it is bright of S to do] の構文表記があり、It is bright of you not to follow his advice. が用例として出ている。文法書によればこの構文で用いられる形容詞には、kind, wise, good などがあるとされる。コーパスを使って検証すると、kind, wise, good については少数ではあるが使用例はある。しかし bright については使用例がない。

ほとんど使われることはない判断して、brightではこの構文と用例を削除した。

また、brightには[S is bright to do]の構文も表示されているが、コーパスではこの用例も見当たらない。ところが、enoughが加わった[S is bright enough to do]の用例は多数見られる。よって、PGではYou are bright enough not to follow his advice.を用例としてあげた。これはhonest, boldについても同じことで、honest [bold] to doではなく、honest [bold] enough to doの形で用いられる。

さらに、AGのurgentの項にHe is urgent (with me) for money. (彼は私に金をくれとうるさくせがむ)という用例とその構文が表示されている。しかしコーパスにHe is urgent...のように人が主語になって「しつこく求める」の意味になる例はないので削除した。

3. 語法注記の見直し

学生が書いた英語を読んでいると、We were bought tiny toys by my father.という文に出会った。文脈から「父に小さなおもちゃを買ってもらった」の意味のようである。AGでbuyをみると「He bought her the hat.=He bought the hat for her.彼は彼女に帽子を買ってやった《◆受身形はShe was bought the hat (by him)./The hat was bought for her.》と書いてある。つまり受身形は、人が主語になる場合と、物が主語になる場合の二つあるということである。また、Swan. *Practical English Usage* second edition. 1995に人が主語になる用例のWe were all bought little presents.が出ている。

しかし、このような受身文はあまり見かけないように思い、コーパスでbuyの受身形を検索した。次のように物が主語になる受身形の例はよくある。

the guns were bought in San Diego, something a ring was bought on a walk around Monte

ところがSwanがあげるような例は見当たらない。この調査を踏まえて、注記を「《◆受身形はThe hat was bought for her.がふつう。人を主語にするShe was bought the hat (by him).はまれ》」とした。文法的に正しい文であっても、一般的に使われる表現なのか、そうでないのかという情報も使用者には重要である。コーパスを使って可能なかぎり付け加えた。

4. 発信型用例の追加

辞書は難しい構文や語の使い方に多くのスペースを割く傾向があるが、使用者が主に高校生であるPGでは、やさしいと思われる用例をあげることも有益であろう。国際化の進展によって、多くの高校生が短期・長期の留学に出かけ、国内でも、英語に接する機会が多くなっている。発信用に使える表現をたくさん習得することが望まれる。この観点から用例の見直しも行っている。

brightの構文については上で取りあげたが、コーパスで頻度が高いものは、She is very bright and very talented.のような文である。形容詞の使い方としては平凡なものであるが、使用範囲は広いと思われるので、用例として追加した。また、AGでは、goodの語義4「親切的」で、I'm being good to you this morning. (けさはみなさんに思いやりを示しますよ)が用例としてあがっている。この文は使用される場面が限定され、受信用の情報である。それに代えて、He was good to me. (彼は私に親切でした)を用例とした。

上記の他に、共起する前置詞やコロケーションなどについてもコーパスによる検証を行った。その結果、PGでは語法の記述はアップトゥデートされ、現代英語の用法を反映するものになった。これまでも増して強力な英語学習のツールになったと信じている。

(はたけやま としかず・大阪国際大学教授)

〈高校現場と英語辞書①〉

辞書は“絶え間なく進化する 学習ツール”である



小林義則

■自立した学習者を育てるには？

高校入学時に行うべきものとして、「辞書指導」がある。やみくもに「訳語」だけを探している生徒が多いという現状を無視できない。理解できない英文に出会うと、分からない単語の「訳語」を並べ替え、「訳文をでっち上げる」という作業に徹しているようだ。最近では、この作業を「電子辞書」で行う生徒が増えている。このような「日本語のパズル」が英語の学習になっている状況を見過してはならない。

「訳語」は、日本人が英単語の意味を推測する際のヒントであり、「用法」までは教えてくれない。「例文」をじっくり読むことなく、「訳語」だけを探しても、辞書を活用して英文を理解したことにはならない。「例文」を効率よく探し出してフルに活用するためには、「品詞」や「文型」の理解も必要となる。

「日本語のパズル」ではなく、英語の語順で英文を理解できるようになるまで学習者を援助する必要がある。指導者の役割は、「辞書を活用することで、平均的なレベルの英語なら自力で理解できる」というレベルまで、学習者を導くことだ。「品詞」や「文型」の概念を理解し、辞書の「例文」をフルに活用できるように指導することは、自立した学習者を育てるために必要なことである。

■「印刷辞書」or「電子辞書」？

勤務校では、一年次は「印刷辞書」が使えるようになることを目標とした。二年次になると、す

でにフルコンテンツ（完全収録タイプ）の電子辞書を持っている生徒もいたが、訳語が数個表示されるだけの「簡易電子辞書」を愛用している生徒が少なくなかった。「訳文のでっち上げ」に利用しているようだ。このような現状を踏まえ、二年次には、「電子辞書」の特色や選び方を説明し、希望者を対象に共同購入をした。

本年度、推薦したのは、セイコーインスツルメンツのSR-T4020である。『ベーシックジーニアス英和辞典』と『ジーニアス英和辞典』という二つの英和辞典を備えた辞書である。生徒の習熟度に応じて使い分けができるという利点がある。もちろん『和英中辞典』も搭載されている。他にも、『オックスフォード英英辞典』、『オックスフォードシソーラス』、『国語辞典』、『漢和辞典』、『古語辞典』、『百科事典』、『日本史小辞典』、『パソコン用語事典』と、十分過ぎる機能を備えていたが、学校販売向けの電子辞書であるため割安であった。

電子辞書の性能が向上したことで、「印刷辞書」にはできないことが「電子辞書」では簡単にできるようになっている。「印刷辞書か電子辞書か？」という二者択一の発想ではなく、両方を利用できることが求められる時代になったと考えるべきだ。つまり、「どちらにするか」という「orの発想」から脱却し、「andの発想」へ転換することである。肝心なのは、指導者自身が「印刷辞書」ばかりでなく、「電子辞書」の使い方も習熟し、辞書が「強力な学習ツール」であることを学習者に伝えることだ。

■辞書にとって例文とは？

一般的に「例文の数」はできるだけ多い方がありがたい。もちろん、一冊の辞書に収録できる例文の数には限界がある。電子辞書なら「例文検索」という機能を用いて、該当する語句を含む例文を全て表示することもできる。この場合、必要な情報を取り出すというよりも簡易コーパスとして利用することになる。整理された情報が出力されるわけではないからだ。つまり、辞書の例文は、どのように「整理」されているかによって「例文そのものの価値」も決まってしまう。

会話によるコミュニケーションの場合はどうか。やはり「会話の定型表現」の情報が欲しいのではないだろうか。そこで問題になるのは使い方である。ここで言う「使い方」は、該当する語句の文の中での使い方ではなく、その定型表現がどのように用いられるのかという情報である。次の(1)(2)の例を参照していただきたい。

(1) *I'll think about it.* 考えておきます、どうしようかな《◆判断に困っているときの表現；時には断りの表現にもなる》

(2) *I'll have to think about it.* 考える必要がありますね《◆断りたい気持ち強い》

これらは『ジーニアス英和辞典』の例文であるが、「会話の定型表現」をやや太い斜字体で示し、《◆》内には丁寧な解説が付されている。定型表現が背負う文脈情報を付加することで、例文の価値を高めている。このように「使い方」を明示した例文から学習者が得られる利益は大きい。

■フリーのウェブ辞書はどうか？

インターネット常時接続のコンピュータのそばで学習できるのならば、Google というサイトをコーパスとして使うと便利である。もっとも、Google はインターフェイスがシンプルだけに、十分に使いこなすにはある程度の予備知識が必要である。辞書の限られた情報では、どのような使い方をするのか分からない時や、どちらの使い方

のほうが一般的であるかを調べるときに便利である。ただし、生の英語をどこまで理解できるかという問題があるため、英語の指導者向けと考えた方がよいかもしれない。Google には「イメージ検索」という機能もある。この機能を用いると、関連する画像を検索してくれるので、「百聞は一見に如かず」の時がある。「Google ツールバー（フリーウェア）」をインストールすれば、さらに機能を拡張することができる。(http://www.google.co.jp/)

その他、見出し語として英和127万語、和英143万語を誇る「英辞郎 on the Web」がある。アルク社のシステムで検索できる無料のオンライン英和辞書である。(http://www.alc.co.jp/)

興味深いものとしては、英和コーパスをベースとした「生きた訳語・活用・用例の辞典」がある。信頼できる翻訳家による和訳と日本語著書の英訳から収集している。(http://www.idd.tamabi.ac.jp/corpus/yourei/index.htm)

■辞書の今後は？

コーパス・ベースの辞書が主流になってきているが、辞書が言葉の変化を迅速に捉えれば捉えるほど、「本来の規範的な使い方」が忘れ去られ、言葉の変化に拍車がかかるのではないだろうか。もはや、この流れを止めることができない時代に入ったと考えられる今、辞書は「言葉が実際にどのように使われているか」を忠実に映し出すものになるべきなのだろう。「規範を示す」という役割は「文法書」に譲るべきなのかもしれない。

ここ数年の辞書の進歩は目ざましいものである。特に、「語用論」や「認知言語学」の研究成果を前面に押し出した辞書も登場し、新しい試みとして注目に値する。今後どのような工夫を凝らした辞書が登場するか楽しみである。学習ツールである辞書の進化は、「学習スタイル」進化にもつながるはずである。

(こばやし よしのり・水戸桜ノ牧高等学校教諭)

〈高校現場と英語辞書②〉

自己表現に役立つ辞書を求めて



持齋雅佳

■はじめに～本校辞書指導時の苦闘

昨年度まで本校では紙の辞書『ジーニアス英和辞典』を必須指定し、1年生4月は中学校の復習と辞書指導を行ってきた。真新しい黒光りする箱から取り出した『ジーニアス英和』と「活用問題集」を使用した辞書指導は、授業開始約15分後に最初のつまづきが生じる。問題集5ページB. 1. “elegantly は _____ を引けば出ている” に生徒が声を上げる。「先生、載ってない!」「この問題、訳わかんネエ」——「その“～・ly”の“～”はその前に出ているスペリングと同じ、っていう意味の記号なんだ。“～・ly”の“～”はこの場合、“elegant”のこと。だから問題の答えは、“elegantly は elegant を引けば出ている”ということなんだな」。大多数の生徒が半信半疑の「ヘエー」という反応を見せる中、目ざとい生徒の声が上がります。「先生、“el-e-gant”ってあるけどこの短い棒線は何?」——（来たっ!）「それはね、音節と言って……」。次々と発生する生徒との応答の末、「活用問題集」は半分ほどしか進まず、5月からは教科書授業に入っていくのであった。

■電子辞書と紙の辞書の位置付けは同じ?

今年度から本校では辞書指導の時間がなくなった。従来「紙の辞書」にこだわってきた私たちが、『ジーニアス』が入っていれば電子辞書の使用を認める方向に路線変更し、残念ながら現行の「活用問題集」は電子辞書の使用を前提として作られていないためである。ある書店の話では、8割近い本校新入生が電子辞書の方を選んだとのこ

とである。不十分ながら辞書指導を受けてきた上級生と、辞書の使い方を学んでいない1年生との間に今後どのような違いが見られるかについては、追跡が必要であろう。

私のように紙の辞書に慣れ親しんできた世代にとって、電子辞書のデメリットを列挙することは容易い。画面の狭さ、スクロールの面倒な点はその大きなものであろう。しかし“視野が狭い”生徒にとっては、電子辞書の小さな画面はむしろ魅力的なはずだ。今そこにある画面だけを見ていけばいいのだ。たとえば先の elegant では、語義を尋ねれば、「選び出された」と答える生徒が圧倒的多数である。理由は簡単、見出しのスペリングの次に最初にある日本語だからだ。「それはこの言葉ができたときの基本的な意味だから、必ずしも今使われている意味ではない」と何度説明したことか。生徒が一度に読むのは2・3行程度なのではないだろうか。紙の辞書なら眼ですぐに続行を見ればいいが、電子辞書ではスクロールして次の画面を見なければならぬ。生徒が英和辞典を使う最大の用途は「語義を調べる」であるから、電子辞書ではスペリングの次にまずコア的な基本的な意味を掲載してはどうか。その意味を使った用例や語法の検索に次の配慮を払い、発音や語源的意味、語形変化や派生語は後回しでもいいのではないかと思う。電子辞書のメリットと現代若者気質を考えれば、紙の辞書と電子辞書はダブルスタンダードであってもいいと思う。(私自身は、まず紙の辞書を使ってから電子辞書に入りたい、と願っている)

■自己表現としてのライティングと辞書

書くことによるコミュニケーションのためには和英辞典は必須である。ハイブリッド方式の『ジーニアス和英』が第2版となり、コア語表示を採用し、ライティングの指導に果たすその役割は大いに期待できると思う。従来の和英辞書の2大難点、「結局英和辞書で引き直さなければならない」「ピッタリ合う英語表現がわかりにくい」がどちらも解決の方向に向かっているからである。

本校入学当初の生徒に自己紹介の英文を書かせると“I childhood from cooking like.”というタイプの文にしばしば出会う。“私は子供の頃から料理が好きです”という日本語の語順に従って単語を並べたものである。このような生徒たちの中の純粹・素直な側面を見出し、手間をかければ、生徒たちはそれに応じて成長を見せてくれる。

私の自宅には200枚近い色紙とさらに大量のレポートがある。平成7年度から5年間担当した3年生「英語II C」「ライティング」での生徒作品である。私は授業を通じ「コミュニケーションとしての書くことによる自己表現活動」を心がけてきた。色紙は、年度末課題「高校生活3年間またはこれからの自分の人生を象徴する英語を、自分なりのデザインで書く」による作品である。

たとえば7年度卒生徒で“pluck”という語を選んだ男子がいた。『「困難・危険に立ち向かう勇氣」という意味の語の中に“luck（幸運）”の綴りが含まれているので選びました」という生徒のコメントが付いている。語源的意味“髪を抜き取る”だけでなく、見出し語の語義の最終個まできちんと読み取ってくれていたのである。

夏休みをもフル活用し、2学期の2カ月にわたって「志望理由書」に取り組んだ。インターネットや学校見学・会社説明会等で、自分の足と眼で情報を入手し、自分の言葉で表現することで相手（学校や企業）を説得するよう求めた。そのためには論拠とともに内容構成も同様に大切であることを訴えた。生徒にとっては採用試験や推薦入試

の時期でもあり、いい準備になったと思う。

学年末には毎年「死刑制度の是非」に取り組んだ。共通の課題英文（死刑廃止論の立場）を踏まえて自分の立場を3点以上の論拠を立てて5段落以上の構成で論述する。事前に「死刑制度の是非」を問うと、毎年8対2で死刑制度賛成派が圧倒的多数である。しかし課題文を読み、各自が図書館やインターネットで検索した後は、少なくとも7対3で死刑廃止論が多数派になる。5年連続のこの逆転は偶然なのだろうか？ 受験テクニックから考えれば課題文を否定する立場の方が論述を展開しやすいはずなのだが……

■もっと未来志向を育てたい

私的に最も印象深い年度末課題作品は10年度生徒の“You can”である。彼女は自分に自信が持てず、第1希望を自らあきらめてしまい、次の目標も一時くじけそうだったが周囲の支えと本人の取り組みで踏ん張り、実現できた。彼女が自分だけの“I can”（私はできる）ではなく、“You can”（あなた、あなたたちもできるよ）と表現したところに彼女の自信獲得と成長を見る思いがする。単純・素朴な中にも自分の思いを込めた自己表現ができるような生徒、そしてそれを受け止められる生徒をこれからも育てていきたい。

ただ、気になることがある。過去・未来のどちらを選ぶかは本人の自由だったが、7年度は3対2で未来が多数派なのに対し、11年度には3対2で過去を選ぶ生徒が多数派だった。時代の閉塞感のためかもしれないが、生徒たちの前途を思うと気がかりである。未来に希望を持ってほしい。過去は“何も思いつかない”未来の裏返しではなく、未来に向かっていくベースであってほしい。

今年度、5年ぶりにライティングの授業を担当することになった。生徒たちの世界が広がり、自分の将来に展望が開けるよう、『ジーニアス英和』『同和英』とともに楽しく苦闘している。

（じさい まさよし・太田市立商業高等学校教諭）



〈連載〉

「積ん読」の本棚から【2】

気になる日本語

——『毎月新聞』『日本語の将来』

山本良一

今の世の中、ほんとにいろいろ気になることだらけである。イラク戦争、日本の安保理常任理事国入り（個人的には反対!）、憲法9条の行方（死守して欲しい!）、年金問題、凶悪犯罪の多発（街を歩くときも緊張!）、異常気象（酷暑の夏! 台風も多数上陸!）、プロ野球の今後の体制、……。枚挙にいとまがない。あっ、もうひとつ、日本語の将来も。

「じゃないですか禁止令」

言葉は変化する。当然のことである。一時的な流行に終わる表現もあるが、後世に残っていくものもある。

私が教師になった80年代当初、「チョーむかつく」と言われて、ぎょっとしたものだが、この「チョー」も「むかつく」も今なお健在である。そしてどちらも後世に残って行ってほしくない日本語である。

でも、「チョー」よりも「むかつく」よりも、とにかく、早く消えてほしい表現がある。それが、「～じゃないですかあ」という言い方。だいたい、「～じゃないですか」というのは、相手を糾弾するときに使うきつい表現だったはずだ。「あなたはこの前の記者会見で、嘘は言っていないと断言したじゃないですか!」といった具合である。そういう元来厳しい表現を、やんわりと同意を求めるのに使うようになったというわけだ。しかし、いくらやんわりと使っても、もともとの有無を言わせぬ押しつけがましき残っていて、それが、私はたまらなくいやなのである。

この言い方が気になりだしたのはもうかれこれ10年くらい前だろうか。ごく一部の「変わった」人が使っているだけだと思っていたら、それ以降、消えるどこ

ろか、使用者は増える一方である。若い人だけではない。いい大人も平気で使っている。さらに、この言い方は、たちの悪いことに、雑談だけではなく、正式な場面でも使われるのである。これが、「チョー」などとは違うところだ。たとえば、テレビのコメンテーターは、間違っても「この問題って、チョーむずかしい」とは言わないが、「この問題ってほんとにむずかしいじゃないですかあ」は連発する。

「もうたくさん! もういやだ!」と思っていたとき出会った本がある。表紙に大きく印刷された「じゃないですか禁止令」という文字が目飛び込んできた。戦場で出会った親友のように感じ、一気に読んだ。

◎『毎月新聞』（佐藤雅彦著、毎日新聞社、2003.3）

これが、その本のタイトルである。毎日新聞が出した毎月新聞とはしゃれた名前だと思ったら、1998年10月から2002年9月までの4年間、『毎日新聞』に月一で連載された記事だとなる。その最初の号（創刊準備号）が「じゃないですか禁止令」なのだ。著者の佐藤雅彦氏は慶應義塾大学の教授だが、私としては、「だんご3兄弟」の作詞者という方がぴんと来る。なにしろ楽譜まで買ってしまったのもで……。またNHK教育テレビで放映中の「ピタゴラスイッチ」の監修もしている。余談だが、この番組、大人が見ても驚くほど「仕掛け」に充ち満ちた番組である。一見の価値ありですぞ。

話を、本に戻す。『毎月新聞』では、佐藤氏が気づいたさまざまなことを鋭い切り口でユーモアたっぷり評している。とくに、最初の「じゃないですか禁止令」には、首肯させられるばかりである。著者曰く、

「～じゃないですか」と言われたら（略）そのことを知って当然、というニュアンスまで生むことも多い。つまり、だれかがその言葉を言った途端、そのことが、既成の事実と化してしまう、実に巧みな言いまわしである。

さらに、多くの人に浸透してきたことも指摘し、次のような宣言をしている。

当「毎月新聞」の編集長として私は、この「じゃないですか」隆盛の状況を看過するわけにいかず、多少の誤解を恐れず、ここにその禁止令を訴えるものであります。

Bravo! 大賛成である。

そのほかにも、「単機能ばんざい」（第1号）、「ネーミングの功罪」（第16号）、「デジタルって何？」（第20号）、「つめこみ教育に僕も一票」（第30号）、「記号のアイコン化」（第44号）など、氏の発想と表現には魅せられるばかりであった。ぜひ一読をお勧めする。

◎『日本語の将来』

（梅棹忠夫著、日本放送出版協会、2004. 6）

日本語の将来について非常に気になることを提案しているのがこの本である。著名な学者である梅棹氏が、日本ローマ字会会長であることは知らなかった。また、不勉強ながら、日本ローマ字会という団体も初めて知った次第である。

さて、この本の8割は、梅棹氏がこれまで行っていたいくつかの対談を収録したものである。当然のことながら、同じ主張が繰り返してくる。最初は疑問に感じていた主張にも、次第に慣れてきて、しまいには賛成したくなる。

氏の一番重要な提案は、日本語の表記法をローマ字に改めよということである。日本語は文法的には非常に規則的であり、外国人も聞き話すだけなら割と早く上達するが、非常に複雑な文字表記（特に漢字）が原因で学習者が増えない、とある。さらに、我々日本人も、漢字の習得にかかる膨大な時間を別のことに使えるのではないかと、とも言う。日本語のローマ字表記は、ハンガルの普及や、中国語のローマ字表記（ピンイン）を考えれば無理な相談ではないと思う。

また、氏の言うローマ字は、英語教育のためではな



毎月新聞
佐藤雅彦 著
毎日新聞社、2003. 3
本体価格 1,300円

日本語の将来
梅棹忠夫 編著
日本放送出版協会、2004. 6
本体価格 1,160円



く、日本語のために使うもので、したがってヘボン式ではなく、訓令式を用いる。「し」は si, 「ち」は ti, 「ぢ」は zi というように。

1000年使ってきた文字ですから、わたしたちには愛着がありまして、なかなか振りすてにくいですが、とにかく21世紀以後の未来の日本文明が生き抜いていくためには、背に腹はかえられない、とわたしは見ているんです。

と言い、漢字とローマ字を和服と洋服に譬える。和服はすばらしいが、今日の文明社会では和服では活動できない、と。

氏の考えをすべて紹介することはできないが、日本語のため、日本人のため、外国人のために、訓令式ローマ字表記を採用すべきだ、とまとめられよう。

最後に、いくつか付け加えておく。まず、梅棹氏は視力を失ったということだが、ラジオを聞いていて一番困るのが同音異義語だとか。同音異義語が多いのは、漢字表記をしているためであり、ローマ字表記にすれば、同音異義語の使用を避けるようになり、日本語自体も変化すると予測している。また、和語は極力かなで表記してあるのが印象的であった。平易な感じを受け、かつ読みやすかった。

私自身、梅棹氏の提言をそのままは受け入れられないが、かなりの部分は理解できる。この提言が大きくなるねりとなるとき、日本語も大きく変わるのだろう。

（やまもと りょういち・筑波大学附属高等学校教諭）

教育現場を無視した「行動計画」



工藤章人

2002年7月、文部科学省が『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想』を打ち出し、わが国の英語教育改革に本腰を入れ始めた。当該の大臣は、中学校・高等学校を卒業したら英語で会話ができるようになってもらいたい、中学校卒業段階では挨拶、対応という平易な会話などができると、高校卒業段階では日常の話題に関する、通常の会話などができるとを目標にしたいと述べ、高校生には英検2級もしくは準2級、中学生には英検3級の資格を取得することを求めている。

しかし、31年間、公立学校（中学5年、高校26年）で英語を担当してきた私には、平均的に見て、今の高校生の英語力が30年前の中学校レベルにまで落ち込んでしまったように思える。少なくとも、私が教えている高校生の中には、アルファベットを満足に書けない者（例えば、小文字のg, pなどを書く時、a, bなどの下部に揃えるように持ち上げて書くのである）があり、品詞の違いが区別できず、英和辞典で一つの単語を探し当

ても、コンテクストに適合した意味を探し出すことができない生徒が大半を占めている。また、基本文型が身につけていないため、自由作文を課してもほとんどの生徒がお手上げ状態なのである。

私は一昨年の夏、東北大学・宮城教育大学・東北学院大学・東北福祉大学の教員（7人）にインタビューし、最近の大学生の英語力に関する調査を実施した。先生方は異口同音に「学生の多くは、基本的に書く訓練を積んでいないので、語彙数が少なく文章の構成力が貧弱である。また、読書量が少ないため、歴史・社会生活・文学などに関する知識が乏しい。大学で完全なバイリンガルの状態を実現することは全く不可能である」と答えられた。

昨年から今年にかけ、私は東北六県英語教育研究大会・全英連全国大会などに参加して、「戦略構想」（名称は、2003年3月に「行動計画」と変えられた）に関するアンケート調査（回答者数は322人）を実施した〔別表参照〕。これを総合的に

教育の現場に検定のための授業を持ちこまざるよう気がする。~~また~~最終的に英検準2、2級並の実力を付けさせたいと言っても、現場では、検定のための授業となるだろう。~~また~~英語ばかり力を入れても日本語が使えない生徒が多い。日本を理解し、日本での事柄、日本の意見を述べることでその生徒を育てることが急務である。high gradeの級を持つているが、文章を書けない(英文で)生徒が多いのも事実である。
まはた

A 教員の文章

英語の運用能力がつか、というのは大変結構ではあるが、どうすればその力がつかつか、というのは難しい。授業の時間内で英語の構造を理解させ、読解を付けさせ、更に自由に表現する力を身につけさせるとは、正直なところ厳しい。又、英検準2級、2級に合格することでその目的が達せられるとも思えない。学校の外国語教育の目標と、実際に行わざるを得ない授業の内容には、(ヤセ)ギャップがある。

B 教員の文章

アンケート集計結果

【質問 1】先生は、文部科学省が打ち出した『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』について、どのように思われますか。

a) 大変素晴らしいものだ	10人
b) 目標が持てるので歓迎したい	77人
c) 何とも言えない	142人
d) 教育現場の実情を全く無視したものだ	77人
その他	e) 賛成 …………… 0人
	f) 条件付きで賛成 …………… 4人
	g) 反対 …………… 12人

【質問 2】先生は、「将来、すべての高校生に英語検定試験の準 2 級もしくは 2 級の実力をつけさせたい」という文部科学省の構想について、どのように考えておられますか。

h) 間違いなく実現できると思う	5人
i) 三分の二位の生徒たちが達成できると思う	13人
j) 半分位の生徒たちが達成できると思う	32人
k) 三分の一位の生徒たちが達成できると思う	95人
l) 何とも言えない	86人
m) 全く荒唐無稽な構想だと思う	65人
その他	n) 賛成 …………… 3人
	o) 反対 …………… 23人

分析したところ、全国の英語教員の約72%（別表の c, d, g の合計人数を322で割ったもの）が、このプロジェクトに疑問を抱いておられ、約84%（k, l, m, o の合計人数を322で割ったもの）の方々が「あまり実効がない」と考えておられることが判明した。全国のすべての高校生の実態を踏まえて回答して下さるようお願いした結果が、これである。

「その他」の欄に、ある先生は次のように書いておられた。「(私は) スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの指定校に勤務していますが、(戦略構想の) 意義を感じていません。予算が与えられ、学校訪問で出張し、授業の視察があるだけで、現実の授業改善のための研修時間も、お互いに高め合うような余裕も時間もシステムもありません。ただ英語が喋れるだけの生徒(帰国生)はたくさん見てきましたが、それは一つの技能に過ぎず、教育とはかけ離れた次元の話だと思っています」と。岩手県水沢市の教員は、「毎日の積み重ねが最も大切だということは明白です。週3時間の授業では(『英語が使える日本人』の育成が) 不可能だということが、なぜわからないのでしょうか。家庭学習が毎日、自ら

できる位の意欲を生徒たちが持っていれば、〇〇計画も何もいらなと思います。また、教員の英語力が向上することがそんなに大切なことでしょうか。不適格なほどの英語力なら問題ですが、生徒を分析する力や時間、指導技術や教材研究をする時間を保障してくれる方がありがたい」と告白しておられた(さらに2人の教員の文章を、そのまま前頁下部に掲載したので、参照していただきたい)。

単位数を減らす一方で、英検における高得点を生徒に取得させようとするのは矛盾しているのではないか。また、英語教員がいくら語学力を磨こうが、家庭学習を全くしない高校生の英語力が増大することは絶対ありえないのである。

「話せる英語」幻想に惑わされるなど斎藤兆史氏と斎藤孝氏が力説しておられる(『中央公論』2004年3月号)。音読・暗唱・系統的な文法の習得・読解力の向上(⇒多読)などを抜きにして、英語力は向上するわけがない。文部科学省が打ち出した「行動計画」は、今の教育現場の実態を全く無視したものであり、間違いなく破綻するだろうと、私は予想している。

(くどう あきと・宮城県米谷工業高校教諭)

「英語授業力」強化 マニュアル

岡秀夫・赤池秀代・酒井志延 著

萩野俊哉

(新潟県立新潟南高等学校教諭)



本書は、英語教員の「授業力」を伸ばす研修プログラムにおいて、テキストとして使うか、あるいは、参考書として読むことを念頭に置いて編まれた本です。文法、発音、語彙といった言語要素の指導や、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能別指導、そして、それらを統合した「総合英語」としての指導や発展的指導あるいは評価といった項目を盛り込み、包括的な内容を目指しています。また、随所に、例えば「あなたの生徒の『英語を話す力』という統合能力をどのように測定したら良いのか考え、意見を交換してみましょう」といった「課題(Topics for Discussion)」も設けてあり、グループ協議などで利用できるような工夫も施されています。

本書の大きな特長のひとつは、その実用性です。例えば、単語帳を使って生徒の語彙力を伸ばす指導、音読の意義と指導法、英作文の評価方法、予習プリントの有効的な活用方法、ペアワークを用いたコミュニケーション能力の評価など、「なるほど」と思い、「これならできる」「やってみよう」とつながる具体的で示唆に富む内容が満載されています。それもそのはず。この本の著者の方たちは、中学校や高等学校の現場の第一線で現在活躍中であり、ご自身が実際に教壇に立たれて実践されてきた、いわばその「結晶」を集めたものだからです。さらに、この本が強い説得力をもって私たち読者に迫ってくるのは、それらの実践を裏付ける理論が見えるからです。理論と実践とは相反するものではなく、相互に補完しあうべきものであるという本書の姿勢が垣間見られるところです。

思えば便利な世の中になったものです。私もそうであるように、一人前の英語教師になろうと思ったら、

同僚や先輩の教師から教えを乞うのは言うに及ばず、広く校外や全県、全国のさまざまな研究会に参加し、そこでの発表や協議、あるいは、参加者との雑談を通して多くのことを貪欲に学び取ろうとするものです。本書が世に出たことにより、それらの必要性がなくなったとまでは言うつもりはありません。しかし、本書を読み、活用し、なおかつ種々の研究会や研修プログラムに参加することのできる今の、特に若い英語教員をつくづくうらやましく思うのです。

最後にひとつ。「英語授業力」を強化するのは誠に結構。しかし、その結果生徒が実際にどのように変容したのか。その追跡とその後の指導や改善もまた大切であることを忘れてはならないと思います。

英語教師のための 教育データ分析入門

三浦省吾 監修

前田啓朗・山森光陽 編著
磯田貴道・廣森友人 著

田中武夫

(山梨大学助教授)



最近の専門雑誌の論文を読もうとすると、統計処理の壁に必ずぶち当たる。データ分析の部分を除いて論文の大筋は掴めたとしても、統計処理が理解できなければ深いレベルで論文を読みこなすことは容易ではない。自分がデータを用いて調査したり実験したりする場合は言うまでもない。統計処理の手法や用語をひと通り学び、データ分析および統計処理の理解を深めたい者にとって、本書はお薦めである。本書の大きな特長は、英語教育に携わる者に統計処理の手法をわかりやすく解説するため、英語教員に身近なテストに関する具体的な事例をうまく活用した点である。

類書にはない本書の優れた点を3つ指摘したい。第1に、数式をほとんど使わずに統計処理の手法をわかりやすく解説しており、解説文そのものもとても読みやすい。この種の本は、一般に複雑な数式や専門用語にあふれ、必ずしも読者にとって親切ではないことが多い。それを本書は、噛み砕いた表現で丁寧に解説す

ることで、うまく解決している。第2に、統計処理を行う研究者が陥りやすい箇所に触れ対応策まで提示している。分析結果の書き方の例を示す細かい配慮もなされ、今後の英語教育研究の質的向上に貢献するであろう。第3に、英語教育研究に必要なと思われる統計処理の手法が網羅され解説されている。妥当性、信頼性、標準偏差、t検定、分散分析、ノンパラメトリック検定、相関分析、回帰分析、一般化可能性理論、因子分析、カイ二乗検定、クラスター分析、2元配置分散分析、構成方程式モデリング、など多岐に渡り、統計処理を概観したい者にとってありがたい。

これまでデータ分析および統計処理において、例えば次のような経験や疑問を持ったことのある場合、本書は大変役立つであろう。A校は英語の平均点が65.2点でB校は66.3点だったから、A校の方が英語の成績がよくないという安易な解釈をしたり、5%水準でt検定を行った結果、有意差があり2群の差は大きいと言えると言断したり、また、因子分析や重回帰分析、クラスター分析などの用語は聞いたことはあるが、何のために用いられるのか詳しく知りたいと思ったりした場合、本書は良いガイド役になる。

ExcelやSPSSなどの統計ソフトが身近にあり、具体的な調査や実験を一度でも行った経験があれば、よりいっそう本書が読みやすいかもしれない。統計処理を用いた調査および実験を計画している、すべての研究者、および、これから研究者を目指す者にとって、本書は必読書の一冊である。

とに文学作品が減ってきているように思える。たとえば、サロイヤンの『人間喜劇』、ソローの『ウォールデン、森の生活』などは教室で扱ったものだった。

本誌の特集「英語教育に文学を！」は、そんな中、「まさにその通り！」と言いたくなる特集である。なぜ教科書から文学が消えたのか、本誌にその理由が出ています。コミュニケーション活動が中心の現在の英語教育にあって、文学はしだいに削られていったというのである。また、共通一次試験（センター試験）が文学離れを決定的にしたともある。出題されないからだ。

文学作品を通して、説明文では味わえない一つ一つの文のすばらしさを感じてほしいと思う。オーセンティックな文学作品で、人間の生き方や文章の美しさを読みとってほしいと思う。だから「心のノート」を配るより名作のある教科書を、という意見には「賛成」と言いたくなってしまふ。

本誌には文学を教材にした授業の実践例（中、高、大）があり参考になる。使える題材についても紹介がされているので、「文学作品を使って授業をしてみよう」という意欲をかき立たせてくれる。明日からの授業づくりに至れり尽くせりの特集である。

今回は例年の特集II「英語教育の総括と展望」の他に「アンケートから読む日本の英語教育」と題する特別記事があり、生徒の英語の授業へのアンケート結果が出ている。昨今、生徒による授業評価が学校現場にもおろされ、各学校はその対応に迫られているが、興味深い結果が載っている。

予想通り、文法や訳読だけの授業は評価がよくないが、難しそうな構文をていねいに説明したり、語源を教えたりと少し工夫すると好印象の授業になる、という結果は興味深い。また、授業の中身だけでなく一人一人の生徒に対する配慮や、授業がスムーズに行えるクラス・マネジメントの資質が印象深い先生になるという結果も出ている。

教師として英語力を磨くという研修もさることながら、授業を行う上での構想や運営に関しても大切な要素であり、しっかりやらなくてはと思わせられる。

文学の特集、そしてこのアンケートの結果と、日頃の授業を振り返り、これからの授業に活力を与えてくれる特集記事であった。ぜひ、ご一読を。

英語教育 10月増刊号

〈特集I〉英語教育に文学を！

〈特集II〉2004年度の英語教育
総括と展望

仲条重幸

(東京都立調布北高等学校教諭)



最近、教科書に文学作品が少なくなっている。環境問題や遺伝子関連のもの、比較文化論等、取り上げられる題材は多彩であるが、教科書が改訂されるこ

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆英語習得にまつわる定説・俗説、そのウソ・ホント

英語習得の「常識」「非常識」

白畑知彦＝編著、若林茂則・須田孝司＝著

(A 5判 194ページ 予価1,890円)

◆多彩な相貌を見せるアメリカを総合的に捉えた画期的事典 事典 現代のアメリカ

小田隆裕・柏木博・巽孝之・能登路雅子・松尾式之・吉見俊哉＝編集

(A 5判 1,548ページ 定価16,800円)

◆辞書学の全領域を明快に解説！

英語辞書学への招待

ハワード・ジャクソン＝著／南出康世・石川慎一郎＝訳

(A 5判 296ページ 定価3,150円)

◆日本人の意識と行動の型をさぐる

日本人らしさの構造——言語文化論講義

芳賀紘＝著 (四六判 320ページ 定価2,100円)

(定価＝本体価格＋税5%)

○ ご投稿大募集中 ○

『G.C.D.英語通信』は、先生方と小社英語教科書編集部との意見や情報交換の広場です。小社教科書についてのご質問、お使いいただいたご感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「GCD教科書 Question Box」で随時ご回答・ご紹介してまいります。

また、英語や授業に関わるさまざまなご投稿、特に下記のテーマに関するものなどをお待ちしております。

- ・授業レポート…特色ある授業の実践記録
- ・授業実践シリーズ…小社教科書を使った授業の紹介
- ・英語教師のひろば…英語教育全般

ご投稿は、郵便でお送りください。採用分につきましては、発行後、薄謝をお送りいたします。なお、採用・不採用にかかわらず、原稿はお返しいたしません。また、採否のお問い合わせには応じかねます。あらかじめご了承ください。

◆営業便り◆

* 来年度お使いいただきます弊社発行教科書のご注文が、全国各地より私どもに送られてまいりました。今回も数多くのご採択をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。来年は新指導要領の教科書が3学年に行き渡る年となります。私どもの教科書をご利用いただきます先生方におかれましては、教科書や指導書に対するご意見ご指摘等、何なりとお聞かせいただけたらと存じます。ご意見等につきましては弊社編集部もしくは営業担当者までお願いいたします。
* 本号にてご紹介いたしましたように、「ジーニアス」シリーズ最新刊の“Practical Genius”が近々発行されます。好評をいただいております『ジーニアス英和辞典』により実践的な要素を織り込み「受験対応」を意識した優れたものです。来春入学予定の生徒さん方へのご推薦辞典として、是非ともご検討いただきたくお願い申し上げます。また、見本等のお問い合わせは私ども販売部宛か弊社担当者までお願いいたします。

◆編集後記◆

▶ 英語を主に読むことで知識を摂取していた時代には、読む力＝実用的な力でした。その後、日本経済の発展・成熟とともに、聴く・話す力＝実用的な力とされてきました。ところがここへ来て、インターネットの普及により、読む力が再び脚光を浴びつつあります。昔と同様に、読むことで情報を収集するという機会が増えたからです。

▶ ぐるりと一巡したように見えますが、もちろんそうではありません。昔と違って、情報を発信する側の立場に立つことが圧倒的に増えました（もちろん、聴き話す力も軽んじられるようになったわけではない）。そう、時代のキーワードは「発信」です。その流れに対応すべく、発信型辞典『アクティブG英和』が進化したのが、その名も『プラクティカルG英和』!!……大上段に構えた話をしてきましたが、なんのことはない、宣伝への布石だったわけですね。

▶ ところで、今度は下世話な話ですが、高校生にとっての「実用的」は「受験に役立つ」でもあるでしょう。この辞典はその点にも大いに気を配っています。詳しくは実物をご覧いただきたいのですが、まずは本誌の各記事やパンフレットをご参考にしてください。(嵐)

Genius・Captain・Departure

英語通信

第36号

2004年11月1日発行

(年2回発行)

【出版情報】 <http://www.taishukan.co.jp>

編集人 ©「G.C.D. 英語通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社 大修館書店

101-8466 東京都千代田区神田錦町3-24

Tel. (03) 3294-2355(編集部) / (03) 3295-6231(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 文唱堂印刷株式会社